

井原市公共交通会議（第4回） 会議概要

と き 平成24年10月16日(火)

11:00~11:45

ところ 市役所5階 501,502 会議室

1. 開 会

1) 会議の成立を報告

- ・出席者 委員 25 名中 実出席 15 名 代理出席 3 名

2) 三宅会長あいさつ

2. 協 議

1) 井笠鉄道株式会社の事業廃止への対応について(報告)

- ・事務局説明

(三宅会長) 委員のみなさんからご質問等はないか。特になければ、後でまとめて伺いたい。

2) 11月1日以降の運行路線およびダイヤ(案)について

- ・事務局説明

(三宅会長) 委員のみなさんからご質問等はないか。

(委 員) 緊急事態の中でまとめられた案だと思う。通勤、通学等の定期券について、井原あいあいバスのフリーパスポートや回数券等は11月以降もそのまま使用できるとのことだが、井原～福山線と井原～笠岡線の定期券はどのような扱いになるか伺いたい。

(事務局) 井笠鉄道の一般路線バスの定期券は今月末まで利用可能だが、中国バスによる代替運行となる11月から来年3月末までは利用できないと発表されている。運賃系は現行通りであるが、定期券の扱いについては現時点では未定である。

(委 員) 定期券に関して、通学の場合は「一年定期」を購入しているケースがほとんどだと思うが、今月末で使えなくなると相当な負担が生じる。この点について、市としてはどのように考えているか。

(事務局) 「払い戻しは困難」との報道がなされているが、井笠鉄道の社内でも協議中であり、状況を見守りたい。代替運行における定期券の取り扱いについては、関係自治体等と早急に協議を行っていきたいと考えている。

(委 員) もう一点、今回の突然の事業廃止により、市民の中では公共共通への不信感が生じていることと思う。我々事業者側としても襟を正していかなければならないと思うが、市としての考えを伺いたい。

(事務局) 市としても、皆様の協力を得て10月1日にバス路線・ダイヤの大幅な見直しを行ったばかりであるが、1ヶ月もしない間にこのような事態が生じ、多くの市民に不便をかけることになり、大変遺憾に思う。その中で、11月から3月末までは、通勤・通学の便を中心に代替運行の確保に努めてきたところである。今後は、4月以降の本格運行に向け、井原市地域公共交通総合連携計画に掲げる基本方針のもと、将来にわたって持続可能な公共交通を構築していきたいと考えている。

(委 員) 北振バスの路線には影響はないか。地域住民はその点を心配している。

(事務局) 北振バスについては現状のまま変更はない。市民にとっては、他の路線も含めた今後の運行についての関心が多いと思う。暫定運行ダイヤについては、明日

17日に開催される「井笠鉄道バス路線廃止対策会議」において内容が決定次第、早急に発表したい。

- (三宅会長) 関係自治体では10月14日に対策会議を立ち上げ、首長レベルで協議を行っている。明日の第2回対策会議では、3月末までの代替運行路線について協議する予定。来年4月以降の運行についても、対策会議で協議することになると思う。
- (三宅会長) 委員のみなさんから、本件以外の全般的なことも含めて、他にご意見等はないか。
- (委員) 10月1日からの路線・ダイヤの見直しについて、「公共交通かわら版」や時刻表等で周知されているが、年配の方から、字が小さくて見にくいとの意見をいただいた。A3サイズに拡大する等、大きく、わかりやすくしてほしい。
- (事務局) あいあいバスについては、現在、新しいリーフレットを製作中なので、完成後に速やかに配布したい。
- (委員) 井原市の公共交通に関わってから3年が経過し、将来に公共交通を残すことをテーマに地域の皆様と一緒に計画を策定し実行してきたが、井笠鉄道がこういう状況にあることを知らなかった。今回については間に合わなかったが、他の交通事業者も井笠鉄道と同じ問題を抱えていると思う。3月まで、そして4月以降の対策もそうであるが、さらにその後のことも考えて、この公共交通会議の場で話をしていかなければならない。これまでも利用促進について議論してきたが、もう少し本腰を入れて取り組まないと、同様の事態が再び生じることにもなりかねない。そのためにも、この公共交通会議を、市民全体で公共交通を利用する仕組みの構築と、それを仕掛け盛り上げていく場へと移行させていく必要がある。目先の緊急対策も重要であるが、その後を見据えた対応も必要である。
- (三宅会長) 公共交通を維持していく気概は今後も変わらないので、皆様からお知恵をいただきながら取り組んでいきたい。今回の件を通じ、公共交通に対する市民の関心は高まりつつあるので、その意識を中長期的な取り組みにつなげていきたい。
- (委員) 年配の方がバスになかなか乗らないのは、停留所まで歩いて行くことが困難なためだと思う。こうしたことへの対策も考える必要があると思う。
- (三宅会長) 井原あいあいバス等多くの路線では、幹線道路以外はどこでも乗降できるフリー乗降区間を設けている。今後も関係者と協議を行いながら、乗りやすいバスにしていきたい。
- (委員) 今回の件では、多くの方にご心配をお掛けしている。運輸支局としては、限られた時間の中、手続きを可能な限り速やかに進めたい。また、発表からこれほどの短期間で事業廃止となるケースは全国的にも初めてである。皆様には、この難局を乗り切れるようご協力をお願いしたい。様々な情報が飛び交うことと思うが、市広報等の正確な情報を参考に、不安が生じないように努めてほしい。
- (三宅会長) 関係各所には厳しい日程の中で対応していただき感謝している。また、今回の突然の事業廃止に対して井笠鉄道へは厳しい目が注がれているが、地域の公共交通を長年頑張って支えてこられたという事実も申し上げたい。市としては、運行の空白期間が生じないように、また、市民への影響を最小減にとどめるべく、路線の維持確保に努力しているので、委員の皆様にも、今後より一層のご協力をお願いしたい。他になければ、今回の運行路線及びダイヤ(案)を明日の対策会議に諮り、代替運行に向けての協議を進めていきたい。

3. 閉 会

仁科副会長あいさつ